

パフォーマンステスト「わたしの一日」 (第8時)

測る力	話すこと [やり取り] : 一日の生活を時こくや頻度をつけて伝え、質問に応じられるか (知識・技能 / 思考・判断・表現)
形式・時間	先生と1対1で約1分×全員。教室前方のテスト席で (待機イス1つ)。活動シート2 (わたしの一日) を持って来てよい。
ことばの条件	黒板の型 (What time do you usually ...? / I usually ... at / always・usually・sometimes・never) と時計の模型は、出したままでよい。絵カード (提示用1部) はテスト席に置いておく。

35人を回す テスト中、ほかの子は何をしているか (これが崩壊しない鍵)

グループ	やること	用意する物
A (テスト中の班)	順に呼ばれてテスト席へ。呼ばれる前と終わったあとは、席でBと同じことをする	活動シート2 (自分のタイムライン)
B	一日タイムラインならべ (小声で)。読み手を1人決め、活動シート1の「よみあげ文」1回戦を上から順に読む (5文で交代)	活動シート1・絵カード (班用)
C	班の中で小声インタビュー。ことばは活動シート2の「インタビューのことば」から。メモはとらなくてよい	活動シート2
D	振り返りカードの「単元のまとめ」を書く (書けたら席でBと同じことをする)	振り返りカード (学校のもの)

1班終わるごと (9~10分) に役割がA→B→C→D→Aと1つずれる (テストを終えた班がBへ、Dの班が次のテスト班へ)。1班8~9人・約1分×35人で35~40分。呼ぶ順は名簿順でなく班ごと (待機イスに座るのは呼ばれる直前の1人だけ)。終わった子は、聞かれたことを話さない——後の子が思い出しテストになる。時計の模型をテスト席に置いておくと、時こくが英語で出てこない子が指で示せる。



先生の質問カードと、評価しないこと

先生の質問カード この順に聞く（子どもによって2～3問でよい）

1 Hello! How are you?

（あいさつ・緊張ほぐし）

2 What time do you usually get up?

（時こくが言えるか。時計を指す＋数字だけでもOK）

3 Nice. Do you always ...?

（「...」はその子が活動シート2に書いたこと（歯みがき・犬の散歩など）を1つ入れる。朝ごはんの有無は聞かない。頻度のことが出れば◎）

4 What time do you go to bed? / Do you read books before bed?

（もう1つ引き出す。答えに合わせてどちらかを選ぶ）

5 （ここで3秒、だまって待つ）

（質問が返ってきたら思判表a。出てこなければ次へ）

6 Thank you! See you!

（お別れまでがテスト）

評価しないこと 起きる時こく・寝る時こくの早い遅いは評価しない（生活のよしあしを測るテストではない）。時こくが英語で言えず時計を指した場合も、伝わっていれば知識・技能は減点しない。朝ごはんや家の手伝いの有無は、たずねる項目にも評価にも入れない。

ルーブリック（3観点）と記録シート

観点	a（十分満足）	b（おおむね満足）	c（支援が必要）→その場でする支援
知識・技能	I usually get up at のように、することに時こくと頻度のことばを添えて、一日の場面を四つまで伝えられる	支えの質問を受けながら、することと時こく（または頻度）を伝えられる	時こくが出てこない→時計の模型で針を合わせさせ、その数字と一緒に英語で言う
思考・判断・表現	質問の内容に合う答えを選んで返し、相手の言葉がとぎれたときには Do you always ...? / What time do you ...? をその場で作ってたずね返し、やり取りを終わらせずに続けられる	質問に合った答えを返せる	質問と答えがずれる→質問をゆっくりくり返し、絵カードを2枚見せて選ばせる
主体的に学習に取り組む態度（単元全体で）	取材メモや振り返りに自分のめあて・手ごたえが具体的に書かれ、活動でも話がとぎれたところで聞き返しや頻度の質問を自分から足し、やり取りを続けようとしていた	活動に参加し、振り返りに手ごたえが書かれている	→振り返りの視点を一緒に選ぶ（「だれの一日が自分といちばん似ていた？」から）

迷ったらb。cは「できない子」ではなく「次の一手がわかる子」として記録する。

記録シート 名簿順に○を1つ（テスト中はこれ以上書かない）

番号	名前	知技	思判表	メモ（1語だけ）
1		a b c	a b c	
2		a b c	a b c	
3		a b c	a b c	
4		a b c	a b c	
5		a b c	a b c	
6		a b c	a b c	
7		a b c	a b c	
8		a b c	a b c	
9		a b c	a b c	
10		a b c	a b c	
11		a b c	a b c	
12		a b c	a b c	

この用紙は12行。名簿の人数ぶん印刷して使う（3枚で36人）。態度（主体性）はテスト当日でなく、単元全体の振り返りカードと帯の様子で見る。

この単元の所見文例（通知表・指導要録に）

テストと振り返りカードの記録から、そのまま使える形で。名前・活動名を入れ替えて使ってください。

【知技・a】「わたしの一日」の紹介では、I usually get up at 6:30. のように、することに時こくと頻度を表す言葉を添えて、朝から夜までの四つの場面を順序よく伝えることができました。

【知技・b】起きる時こくとすることを、英語の一文で言えるようになりました。一日タイムラインならべでも、聞こえた時こくの場所に絵カードを置いてから、その文をまねして声に出しています。

【思判表・a】取材で聞き取った時こくと頻度をもとに、自分の一日を四つの文に組み立て、順序を表す言葉でつないで紹介することができました。相手の答えに応じて Do you always ...? とたずね返す姿もありました。

【思判表・b】一日の出来事すべてではなく、友だちに知ってほしい四つの場面をえらんで紹介しました。おたがいの過ごし方を知り合うという目的に合わせ、時こくを言うか頻度のことばを添えるかも選んでいます。

【態度】頻度のことばまで聞き取ろうと、リサーチでは Do you always ...? をくり返し使いました。聞き取れないときは One more time, please. と言い直しを求め、三人の取材を最後までやりきっています。

【態度】自分とちがう一日の過ごし方にも Really? と反応しながら耳をかたむけ、振り返りには自分と似ていた友だちの一日を挙げるなど、伝え合うことへの関心が高まっています。

【はげまし型】自分の一日のタイムラインを四つそろえて書き上げました。時計の模型で針を示しながらであれば起きる時こくが伝わり、絵カードをえらべばすることも添えられます。英語の一文になるまであと一歩です。

【接続型】一日の生活を表す英語の表現と、always・sometimes などの頻度を表す言葉に、音声からたっぴり慣れ親しみました。中学校で学ぶ一般動詞の文の学習に、実感を伴ってつながる土台ができています。

【発展・★3】一日リサーチの取材役では、答えがとぎれた相手にも What time do you ...? と時こくをたずねる問いをその場で作り、取材を最後までやりきりました。

書き方の型 ①活動名（具体）／②できるようになったこと（評価規準のことば）／③子どもの姿（1つだけ）の3つで組み立てる。並べる順は文例ごとに変えてある——同じ子が1年に何度も同じ文型の所見を受け取らないようにするため。起きる時こく・寝る時こくの早い遅い、手伝いの有無には所見で触れない（生活指導・家庭の状況への言及になり得るため。「伝え方」の成長だけを書く）。★3は「教科書をを超えて届いた子」の記録。この★は成績そのものではありません（評価は先生の観点に沿って行います）。